

水稻情報

(第1号)

令和5年3月29日
あおば農業協同組合
各地区農業技術者協議会

～ 1等米比率90%以上の継続のためまずは健苗育成から！！～

- ・コシヒカリの田植えは5月15日を中心に、育苗日数は19日間以内を目安に計画的に播種しましょう。
- ・育苗ハウスの換気徹底により健苗を育成し、初期生育の確保につなげましょう。

コシヒカリの8月4日頃出穂を目指したスケジュール(平坦地)

浸種日	播種日	田植日	出穂期
4/8	4/19	5/10	8/1頃
4/17	4/26	5/15	8/4頃
4/26	5/3	5/20	8/7頃

- 播種から田植えまでを19日間以内としましょう
- 健苗移植で初期生育も良好に

田植えが早いと
出穂後は高温に



出穂後の高温を
回避すれば、
基白・背白粒の
発生が減少!

初期生育良好!



☆☆☆ 育苗のスケジュールと作業内容 ☆☆☆

月／日	作 業	温度管理	管 理 の ポ イ ン ト																					
	①育苗準備		・苗箱の消毒は、イチバンで(苗箱はしっかりと乾かしてから使用。) ・ハウス内を均平化し、温度計を設置																					
4／16	①比重選 ②種子消毒	水温は 10～15℃ を確保	① 比重選により、充実した種籾を準備する 【確安による比重液の作り方】 <table><tr><th>種類</th><th>比重</th><th>水10ℓに溶かす硫安の量</th></tr><tr><td>うるち</td><td>1.13</td><td>2.5kg</td></tr><tr><td>もち</td><td>1.08</td><td>1.5kg</td></tr></table> *発芽障害を防ぐため、選別後硫安を水で洗い流す ② 種子消毒の徹底 【薬液の作り方】薬液は1回ごとに新しく作り換えて浸漬する <table><tr><th>薬剤名</th><th>希釈倍率</th><th>浸漬時間</th><th>種籾量</th><th>水量</th><th>薬剤量</th></tr><tr><td>モミガードC水和剤</td><td>200倍</td><td>24時間</td><td>10kg</td><td>20ℓ</td><td>100g</td></tr></table> *種子消毒後の廃液は適切に処理し、用水、河川に流出させない	種類	比重	水10ℓに溶かす硫安の量	うるち	1.13	2.5kg	もち	1.08	1.5kg	薬剤名	希釈倍率	浸漬時間	種籾量	水量	薬剤量	モミガードC水和剤	200倍	24時間	10kg	20ℓ	100g
種類	比重	水10ℓに溶かす硫安の量																						
うるち	1.13	2.5kg																						
もち	1.08	1.5kg																						
薬剤名	希釈倍率	浸漬時間	種籾量	水量	薬剤量																			
モミガードC水和剤	200倍	24時間	10kg	20ℓ	100g																			
4／17	③浸種	水温は 10～15℃ を維持	③ 浸種はあわてず、播種の10日前頃から始める ・ 水温×日数＝積算温度100℃を確保する ・発芽揃いを良くするため、 浸種初日は水温12～13℃とする ・水は浸種後2～3日目に交換、次からは1～2日おきに交換する																					
4／25	④催芽	育苗器内温度 28～30℃ 20～24時間	④ 芽の長さをこまめにチェック ・芽揃いを良くするため1日2～3回、袋を反転させる																					
4／26	⑤播種 ⑥出芽	育苗器内温度 30℃ 2～3日	⑤ 播種量は催芽籾で箱当たり150g(乾籾120g)の薄播きとする ・均一に播種するため、籾の脱水は十分に行う(籾が手に付かない程度まで陰干しする) ⑥ 育苗器の温度をこまめにチェック(サーモスタットの使用前点検は必ず行う)																					
4／29	⑦緑化	ハウス内温度 昼25℃以下 夜10℃以上	⑦ 芽の長さが1cmに揃ったらハウスへ搬出 ・搬出後は、覆土を落ち着かせ、緑化中に水不足にならない程度にかん水する ・緑化期間中でも、ハウス内の温度が25℃を超えないよう積極的に換気する ・第1葉が展開したら速やかに被覆資材を外す																					
5／1	⑧硬化		⑧ 田植えの10日前からは、昼夜ともに換気し、十分外気に慣らす ・かん水は朝にたっぷりと行い、日中は床土の乾きにに応じて行う ・かん水過多は根張りが悪くなるので、水持ちの良い床土はやり過ぎにも注意																					
5／15	⑨田植え		⑨ できる限り穏やかな気象条件で田植えを行う																					

GAPチェックシート・栽培履歴の提出に備えて「栽培こよみ」に作業月日を記入しましょう

春の土づくり対策

☆☆☆ 1等米比率の向上は継続的な土づくりが基本☆☆☆

1 土壌改良資材の施用 ～ ケイ酸や腐植含量（有機物等）が低下しています ～

- ケイ酸を施用することで高温条件下でも登熟が向上し、整粒歩合が高くなります（図1）
- 成熟期の稲体ケイ酸濃度が高いと、割粃が減少し、カメムシ斑点米の被害も抑制します（図2）
・令和5年産に向けて、積極的に施用をお願いします！

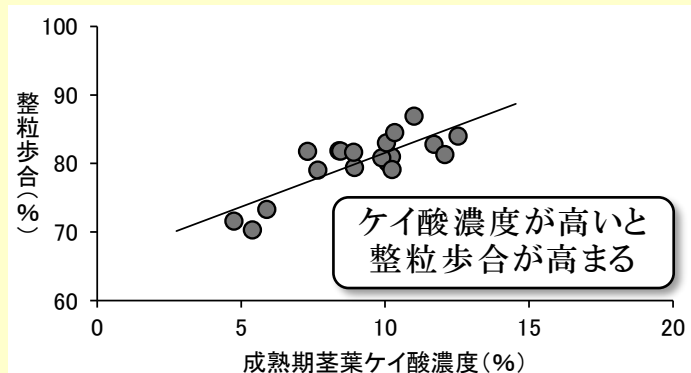


図1 成熟期の茎葉のケイ酸濃度と整粒歩合の関係

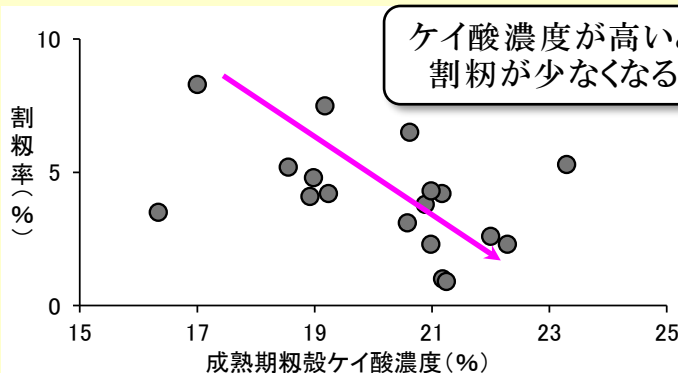


図2 成熟期の籾殻ケイ酸濃度と割粃の関係



○ケイ酸＋アルカリ資材の継続施用

継続施用でケイ酸は品質向上に、アルカリ成分を含む資材はpH矯正に役立ちます

【ケイ酸質資材等の標準施用量】

		(kg/10a)	
資材名	施用量	資材名	施用量
グリーンウェイブDX	90～120	シリカロマン	100
あおばフミンエース	100	有機加里入りシリカロマン	100
スーパーケイサン+	90	鶏糞良好	80～100

※各種、フレコンもあります。活用ください

2 有機物の施用 ～ 有機物の施用であおば米の食味向上 ～

堆肥や発酵鶏糞などの有機物を積極的に施用し、地力の向上に努めましょう

※JAあおばから堆肥散布に対する助成もあります。（翌年1月までに申請が必要です）
詳細については、各地区営農経済センターまでお問い合わせください。

【堆肥施用量の目安】春施用：10a当たり

牛糞堆肥	1トン
豚糞堆肥	0.5～1トン
発酵鶏糞	75kg(復元田：150kg)

注：コシヒカリは、基肥を窒素成分で1kg減肥

3 深耕による作土層の拡大

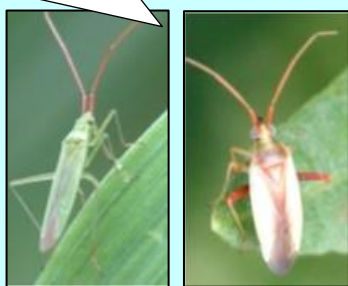
春耕時はトラクターの速度を落とし、作土深15cm以上を確保しましょう

カメムシ対策 第1回

～ 春から始まる雑草対策 ～

- ・カメムシが好むイネ科雑草を春のうちに少なくすることで、カメムシの密度を抑えることができます
- ・除草剤を使用する場合は、4月中下旬頃に畦畔等にバスタ液剤、ザクサ液剤等の茎葉処理除草剤を散布しましょう（遅くとも田植えの始まる前までに行いましょう）
- ・除草剤散布をしない場合は、幼虫の餌となるイネ科雑草が穂をつけないよう、こまめに草刈りを行いましょう

僕たちは、春に卵から孵って、イネ科雑草で繁殖するよ



斑点米カメムシ類

【除草の方法と主な効果】

除草方法	越冬世代に対する密度低減効果		除草により期待される効果等
	幼虫	成虫	
除草剤散布 (バスタ、ザクサ等)	○	○	・カメムシ類の密度低減効果が高い ・幼虫の餌となる雑草がなくなり、生存できなくなる ・寄主植物がないため、成虫の飛来や産卵がみられなくなる
草刈り (穂が出ないように)	△	○	・除草剤散布をしない場合の対応 ・幼虫はイネ科雑草の葉だけでも発育できるが、穂がないため、幼虫の発育遅延や羽化率が低下する ・穂がないため、成虫の飛来や産卵が抑えられる

(注) ○：効果が高い、△：一定の効果がある

【水稻育苗ハウスで野菜等の栽培を行われる方へ】

水稻育苗ハウスで野菜等の栽培を行う場合、苗箱施薬剤は育苗ハウスから搬出した後に散布しましょう

「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」春の農作業安全運動実施中！（3/1～5/31）

「水稻情報 第2号」の掲載予定日は、4月26日です。